

北大合格発表行われる 新北大生それぞれの物語



4月号

<編集・発行>
北海道大学新聞
編集部

<URL>
hokudaishinbun.com
(お問い合わせ・情報提供
もこちらから)

次の発行予定は6月

CONTENTS

- ・北大教授に聞く 今冬の寒さなぜ? ……2面
- ・医学部 百年記念館新設へ ……2面
- ・特集 学内メディアの今昔 ……3・4面
- ・部活・サークル紹介 北大祭事務局 ……5面



(左) 発表に駆けつけた部活・サークルの関係者に
胸上げされる合格者

今年3月7日、北海道大
学構内で本学の平成30年
度入試前期日程の合格者が
発表され、会場にて本紙は
合格者を対象に取材を行っ
た。前期日程においては約
2000名が合格。本大学
の門をくぐった。また、3月
20日には後期日程の合格
発表も行われた。

発表当日の午前9時、本
学の高等教育推進機構前。

会場には多くの受験生がひ
しめき合い、またその周囲
には本学の部活・サークル
などが彼ら・彼女らを祝福
するために集まった。そん
な中、本紙は見事合格を勝
ち取った新たな北大生に話
を聞いた。

「夢か現か、という気分。」
石丸さん・吉田さん
札幌出身

そう嬉しそうに語ったのは
立命館慶祥(りつめい)かん
けいし(りつめい)高校出身の石
丸さん。医学部保健学科作
業療法専攻の新入生だ。2
浪を経験したという彼は合
格発表までの時を大きな不
安と共に過ごしてきた。「前
回受験したときの失敗の屈
辱と、また同じ悲しみを背
負うことになるんじゃない
か」という不安はありまし
た。センター試験の結果が
芳しくなく、二次試験に向
けた気持ちの切り替えに苦
労したという石丸さん。そ
れでも、そこから北大一本
に絞り一心不乱に努力して
きた。その努力が無事に実
を結んだ。

今後の学生生活について
彼に聞いてみると、「浪人時
代の根性を活かせるよう
な、スタミナを使うスポー
ツをやりたい。また、医学部
で人の命を扱う以上、ミス
は許されない。学業の方も
惜しみなく取り組んでいき
たい」と熱く語ってくれた。
そんな彼が「一緒に合格
できて本当に嬉しい」と口
にしたのは、札幌北高校出
身の吉田さん。石丸さんと
共に合格発表の会場に来て
おり、めでたく水産学部へ
の進学を決めた。彼と石丸
さんは同じ塾で北大入学を

目指して共に勉学に励んだ
仲である。彼もまた自分の
番号を見つけたときは、「信
じられない」という気持ち。
余裕があったわけでもな
く、ドキドキだった。徐々に
冷静になっていくにつれて
実感がわいてきたという。
そして、「浪人時代は体を動
かす機会があまりなかった
から、大学が始まったら運
動系のサークルに入りた
い」と、2人は嬉しそうに
笑っていた。

福岡出身 Yさん

3人目はY・Mさん(本人
希望によりイニシャルで掲
載)。福岡県立修猷館(しゅ
うゆうかん)高校出身で、

キッチンカー継続へ 学生・教職員に人気

学生・教職員に人気



体育館前に出店するキッチンカー

昨年度より試験導入され度
いっっぱいの継続が決まっ
ていたキッチンカーの今年
た。引き続き体育館前、図書

本学の文学部を受験し見事
に現役合格を果たした。合
格発表には母親と共に来て
おり、取材にはとても晴れ
晴れとした表情で応じてく
れた。受験時の手ごたえに
ついて尋ねると、「白紙はな
かった。過去問の時よりは
できた感触はあったが、国
語や世界史は明確な解答が
ない設問もある。当たって
いるか不安で、今の今まで
自信はなかった」と語った。
「今でも実感が湧かない。
(掲示されていたのが)本当
に自分の番号なのかと思っ
たくらい」とYさん。

最後に紹介するのは、札
幌北高校出身の鷺頭さん
だ。「まだ合格した実感が湧
かない」と話す鷺頭さん。今
年度、法学部に現役合格し
た。高校3年生の夏までは
部活動に打ち込み、受験勉
強を本格的に始めたのは部
活の引退後だったという。
塾や予備校には通わず独学
で勉強し、冬休みは連日夜
9時まで友人たちと自習し
た。二次試験では思うよう
な手応えが得られず不安
だったと語るが、合格発表
を無事に終えて安心してい

るようだった。
鷺頭さんが北大を目指す
きっかけとなったのは、
オープンキャンパスでのゼ
ミ体験だ。「法学部で行われ
た著作権関連の授業が面白
かった。家から通いやすい
ことも北大の魅力だった
が、法学を学びたいという
気持ちはそこで芽生えた」と
当時を振り返った。

と、キッチンカーは学生・
教職員が主に利用してい
た。その反面、観光客の利用
者は少なく、利用者層の
拡大が今後の課題だ。
メニューは本学ホーム
ページに掲載されてい
る。出店数も多く人気を博
しているのはケバブで、そ
の他のメニューでも食堂で
の提供が難しい食べ物など
の問題はあるものの、一
気となった。昨年度の
アンケート調査による
活かした出店が続く。

クラーク会館 改修始まる

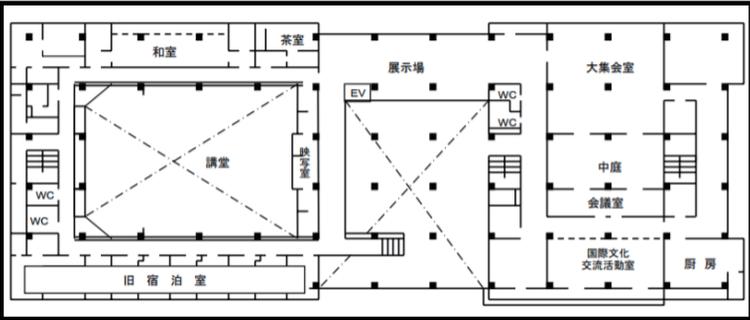
七大戦に向け6月まで

クラーク会館3階における大集会室などの改修工事が今年4月から始まった。本工事では、大集会室(3階)の内装リニューアルと、会議室・国際文化交流活動室(同階)を大集会室に転換する工事が主に行われる。今年59年目を迎える同会館は、これまでも老朽化により部分的に改修が行われてきた。今回の工事は、全国七大学総合体育大会が北海道で開催されることに伴って同会館が使用されるため実施される。夏の大会開催時には2つの大集会室で受



(上) 改修が行われているクラーク会館

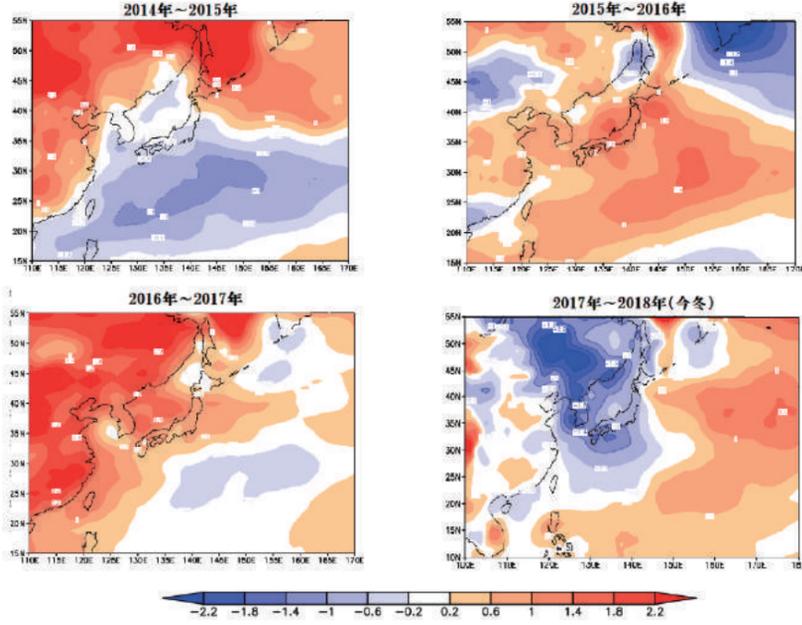
(下) 同会館3階の工事前の図面 (本学HPより)



医学部百年記念館 新設へ
100周年を祝い、2019年に北図書館向かいの医学部敷地内に、北海道大学医学部百年記念館が2019年に新設される。建設予定地では工事前調査がすでに完了しており、今年度中に着工される見込み。

当記念館は医学部創立百周年を祝う事業の一環として建設される。本学医学部は、北海道帝国大学設置から1年後の1919年に設置され、農学部次ぐ歴史を持つ。当記念館は2階建てで、医学部歴史資料の展示・保管施設や、講演会・学会・会議など多目的に使用できる施設を備える。

建設費用は「北大フロンティア基金」で賄われる。これは2006年に創設された本学の独自基金であり、寄付金で賄われている。寄付者は使途の指定が可能だ。そのため、本事業を支援したい個人・法人は寄附申し込み時にその旨を記す事で支援できる。医学部は2020年度末まで寄附の受付を継続する予定。



(図1) 過去4年間の地上気温(冬)における平年との差

今冬は平年より肌寒い気候が日本各地で続いた。特に西日本では、鳥取県倉吉市で観測史上1位の最低気温を記録するなど平成に入ってから一番の寒さとなった。気象庁の地上気温データによると、今冬における気温は全国的に平年より低く、過去4年間で最も特に平年との差が目立つ。(図1)

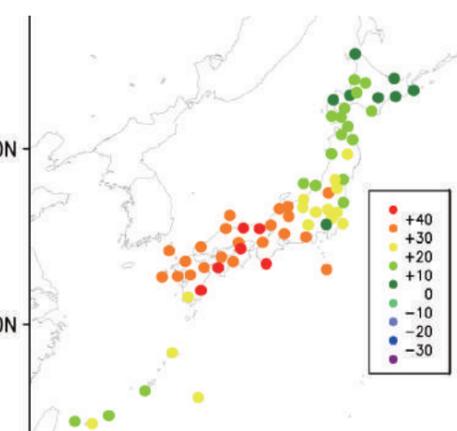
本学理学研究院で気象学を専門としている稲津将教授によると、今年の厳冬の原因はジェット気流の動きにあるという。ジェット気流とは上空に存在する強い

空気の流れることで、その北側には寒気(冷たい空気)が位置する。冬季には、日本の上空を南北2つのジェット気流が流れている。これらの気流は蛇行することがあり、今冬は北側のジェット気流がシベリア付近から強い寒気を日本にもたらすような軌道を描いた。さらに、「ラニーニャ現象」と呼ばれる太平洋の海水温変化が発生する事で南側のジェット気流の流れにも影響が生じ、こちらも日本に寒気を引き込んだ。これらの現象を要因として、今シーズンは西日本を中心に厳冬となった。

北海道は影響受けず

ジェット気流の動きによる厳冬に見舞われる地域が多い一方、北海道は影響を受けず平年並みの気温となった。ジェット気流の蛇行が北海道より西側で顕著であったことや、北海道が「ラニーニャ現象」による影響を受けにくいことが要因

だ。図2は「ラニーニャ現象」とそれと対をなす「エルニーニョ現象」が冬季にどれだけ地上気温へ影響を与えるかについての相関を示している。北海道などの北日本で相関が低くなっているが、これは両現象から影響を受けるジェット気流が北緯30度(屋久島付近)の辺りと比較的南にあり、北日本に与える効果が限定的であるためだ。このような要因が重なり北海道は平年並みの気温となった。



(図2) 「ラニーニャ現象」・「エルニーニョ現象」と地上気温(冬季)の相関

今冬の寒さ ジェット気流の動きが要因
北大教授に聞く
理学研究院・稲津将教授

北海道大学新聞 Email: hokudaishinbun@gmail.com

新聞広告 募集中 メールアドレスへお気軽にお問合せ下さい。

新入部員 募集中

説明会 4/11(水) @E205
4/18(水) @E203
4/25(水) @E204 全て18:30より

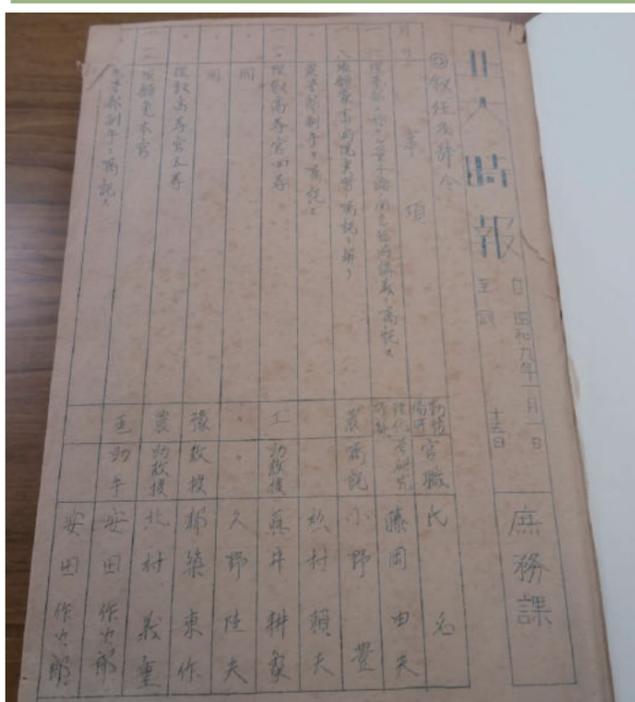
<特集> 3・4面 学内メディアの今昔

北大時報 学内広報誌としての役割を

北大時報は北海道大学内のイベントなどの情報を伝える学内教職員向けの広報誌である。発行は本学の総務企画部広報課が行っており、現在第768号まで作成されている。月に一度発

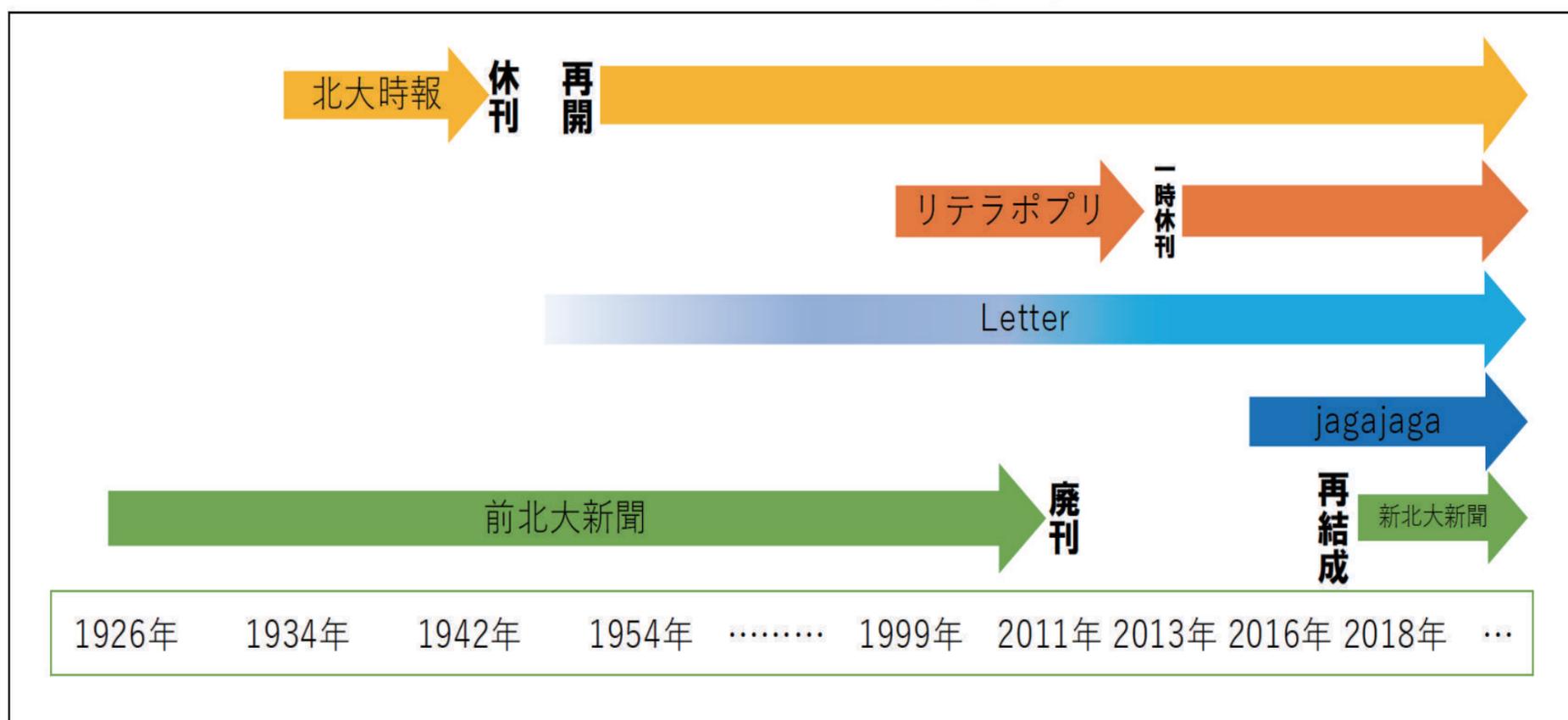
行しており、本学ホームページからも閲覧可能だ。内容は学内で行われたイベント情報や大学教職員に關連したニュースが主であり、これらの情報を学内で共有することを目的として発行されている。過去には各教職員に紙面の形で配布されていたが、1996年からウェブ上で公開を開始。現在はこちらに重点を置いている。紙面での発行数は現在約2000部で、希望する教職員や名誉教授らに配布されている。他の旧帝国大学や道内の他大学との間で学内広報誌をやり取りする機会も多い。

同誌は1934年に創刊された。当時は北海道帝国大学の広報誌として作成され、内容は事務伝達に限られていた。1942年まで発行され続けたが、その後しばらく休刊。北海道帝国大学が北海道大学に改組した後、1954年5月に再開した。この際ナンバリングも改められ、これが現在の北大時報の第1号となった。その後内容の細分化や紙面のサイズ変更などを経て現在の形式に至る。同誌の今後について、北大時報を担当している広報課の武田朋子さんに話を聞いた。武田さんは、「掲載内容については精査されている。武田さんは、掲載内容についても知らないが、なくす方向にはならない。学内の出来事の共有には意味がある」と話す。今後も学内の情報共有のための媒体として継続していく見通しだ。



北大時報の第1号 手書きで伝達事項が記された

学内メディアの変遷



学外向け広報誌

リテラポプリ

紆余曲折を 経て現在へ

リテラポプリは北海道大各方面の教職員が大きな負の研究・人材などを外部に発信するための広報誌である。発行は本学の総務企画部広報課が行っている。記事作成は複数の部局の教職員から構成された「リテラポプリ企画編集チーム」による。1999年に創刊されてから、現在第60号まで作成されている。年2回発行しており、本学ホームページからも閲覧可能だ。

同誌が誕生したのは北海道大学が法人化する以前の1999年であった。そのため、現在と比べて大学の広報活動に対する意識が低く、学外向けの広報誌も存在しなかった。その中で学外に対する広報活動の必要性を訴える声が上がったことが、同誌の誕生する原動力となった。

創刊後しばらくの間は年4回の発行が行われていた。しかし2009年、学内の教育組織「北海道大学COSTEP」が同誌を教材として用いる運びになり、転機が訪れる。この動きは同組織の教育活動の一環であったが、広報活動を専門としない学生に企画・作成を行わせたため、その手助けに

Letter

学生メディアと広報誌のハイブリッド

学生生活に密着した生協広報誌

Letter は北大生協学生組織委員会(GO)が発行する学生向けフリーペーパーだ。同紙の編集は、新入生向け冊子『北大生の生活』の作成、共済活動などに代

同紙の前編集長・西岡尚樹さんによると、創刊の時期・経緯は記録が残っておらず不明だが発行回数は累計400回を超えており、複数ある生協の広報紙の中で最も歴史が長いという。

現在と同様の形式になったのは2011年。受験生・新入生向け活動の拡大によって人手が不足し、2010年には廃刊を求める声

Letter の現在の発行目的は大きく2つある。学生の生活に役立つ記事を発行することと生協の広報活動を行うことだ。休刊も含めて今後のあり方を毎年検討しつつ、発行目的の見直しを繰り返している。記事内

容には特に縛りを設けず、編集委員が必要だと思っても、伝えたいことを記事にしている。最近では、学生委員会の活動紹介や共済PRなどの生協広報記事のほか、グルメや旅行関係、18歳からの社会人講座など学生の生活に根ざした記事も数多く掲載している。年3〜4回の発行であることから季節感を出すようにも心がけており、表紙のイラストも毎号異なる。随所に遊び心を散りばめることで親しみやすさも追求しているという。

課題は知名度の向上

同紙は生協広報誌として

は最も長い歴史を持つが、知名度の向上が課題だ。発行しているアンケート調査により、Letter 読者の中にも学生委員会が発行していることを知らない学生が一定数いると分かった。最近では生協会館や北部食堂での配布を開始するなど、より学生に認知してもらうため試行錯誤するなど、より学生に認知してもらうため試行錯誤



(右) 直近1年間に発行されたLetterの表紙季節感もさることながら、毎回イラストが異なるのが特徴だ

jagajaga 北大生に新たなプラットフォームを

学生向けの双方向雑食メディア

jagajaga は2016年5月に誕生した学生向けWEBメディアだ。不定期に記事を更新している。同メディアの立ち上げは学生の活動に対する問題意識に起因する。立ち上げにあたった前編集長は、ピラ配りやポスター掲示が主流の新歓などの宣伝活動などに対し、WEB上で新たなプラットフォームがあれば便利なのではないかと考えていた。そこで2016年春、個人的なつながりを使ってメンバーを募り、サイトを開設。オープン直後に北大祭関連の記事を数多



北海道が、いまアツイ。 jagajaga のWEBサイトに掲載されたイラスト (http://www.hu-jagajaga.com/aboutus より4月5日に引用)

jagajaga が対象としている読者はあくまで学生だ。北大生による北大生のためのプラットフォームを標榜している。SNSのように気軽に情報を発信してもらうため、扱うジャンルに縛りは設けていない。単に読み物として記事を読んでもらうだけでなく、使ってもらうことも重視している。サークル等の団体紹介やインタビュー、グルメからイベント広告に至るまで、バラエティに富んだ記事を通じて学生間の双方向のつながりの創出を試みる。運営は約10名の中心メンバーが行うが、これ

く掲載し、知名度を一気に高めた。運営は同じく新興学生メディアである東大のUmei(ユーミート)や京大の360。(サンロクマル)を参考にした。学生の自主性を重んじ各自が自由に記事を書くとともに、あえて大学からの公認は申請しない。 jagajaga が対象としている読者はあくまで学生だ。北大生による北大生のためのプラットフォームを標榜している。SNSのように気軽に情報を発信してもらうため、扱うジャンルに縛りは設けていない。単に読み物として記事を読んでもらうだけでなく、使ってもらうことも重視している。サークル等の団体紹介やインタビュー、グルメからイベント広告に至るまで、バラエティに富んだ記事を通じて学生間の双方向のつながりの創出を試みる。運営は約10名の中心メンバーが行うが、これ

Table with 2 columns: Rank (1-10) and Book Title/Author/Publisher. Includes titles like 'All vs. 教科書が読めない子どもたち' and '反共感論'.

北大生協書籍部 売り上げランキング (3月) ※クラーク店と北部店の合計

Table with 2 columns: Rank (1-5) and Book Title/Author/Publisher. Includes titles like 'ラプラスの魔女' and '武士道'.

Table with 2 columns: Rank (1-4) and Book Title/Author/Publisher. Includes titles like 'つながる脳科学' and '新聞記者'.

楽しみつつも真剣勝負 祭を作る責任感と誇りを胸に

部活・サークル紹介 ①

北大祭事務局

北大祭でオレンジのジャンパーを着た一団を見たことがあるだろうか。彼らが北大祭事務局(正式名称:北海道大学祭全学実行委員会)のスタッフであり、言わずと知れた北大祭の屋台骨だ。部活・サークル紹介第1回目は、北大祭事務局の素顔に迫る。

北大祭でオレンジのジャンパーを着た一団を見たことがあるだろうか。彼らが北大祭事務局(正式名称:北海道大学祭全学実行委員会)のスタッフであり、言わずと知れた北大祭の屋台骨だ。部活・サークル紹介第1回目は、北大祭事務局の素顔に迫る。

北大祭事務局(正式名称:北海道大学祭全学実行委員会)のスタッフであり、言わずと知れた北大祭の屋台骨だ。部活・サークル紹介第1回目は、北大祭事務局の素顔に迫る。

北大祭事務局(正式名称:北海道大学祭全学実行委員会)のスタッフであり、言わずと知れた北大祭の屋台骨だ。部活・サークル紹介第1回目は、北大祭事務局の素顔に迫る。



昨年の北大祭終了後の集合写真(事務局提供)

基本データ

活動内容の概要: 大学祭の準備・運営、大学祭を良くする活動
活動理念: 学生主体・地域貢献・交流の場
人数: 約 200 人 (1 年目・2 年目以降各 100 人前後)
活動頻度: 基本的に週 2 回 (全体集会、続いて各部署での部会)

主力は2年生

他大学の大学祭実行委員会では3年生が活動の主体となるケースが主流だが、北大祭事務局は2年生(大学祭本番時の2年生)が主力だ。新入生は4月に入局したのち、まずは各部署に配属される。6月の祭本番までは2年生を中心とする(1年目(うわねんめ)の上級生のもとでそれぞれの仕事を担う。祭終了後、各部署での反省を経て、夏休みの合宿で上級生からノウハウ

このほか、他大学の大学祭祭訪問なども含め年間を通じて活動が行われる。大学祭の実行委員会ともなれば祭の前後に行われている活動が目立つが、事務局の活動は年間を通じて途切れることがない。

多様性の中にも真面目、という共通項

北大祭事務局には多数のメンバーが集まり、出身地、学部・学年を問わず人が集まる。タテ・ヨコいずれに



部会の様子

北大新聞復刊の ごあいさつ

編集部 代表

北海道大学新聞

この度は、1年間という期間限定で北海道大学新聞(北大新聞)をオンラインで復刊させていただきます。この1年間の空白期が生じることになりましたが、昨年からは、1年間という期間限定で北海道大学新聞(北大新聞)をオンラインで復刊させていただきます。この1年間の空白期が生じることになりましたが、昨年からは、1年間という期間限定で北海道大学新聞(北大新聞)をオンラインで復刊させていただきます。



北大新聞の復刊ならびに4月号の発行に向けてご協力いただいた全ての方々に、この場をお借りして深く御礼申し上げます。